

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：次世代 SDGs ラボ

27A-41

代表者：代表世話人 中口 毅博

URL : <https://incollage-sdgs.site/ngsdgs-lab-about/>

1. 活動が必要とされた状況

中高生や大学生が主体となり、環境の取り組みを学ぶ機会を増やし、環境活動に次世代が関与するきっかけをつくる必要があることから、本活動を実施しました。

2. 活動の内容

- ・ 次世代 SDGs ラボ定例ミーティングを、川越大黒屋食堂とオンラインにて、月 1 回、中高生が 5～10 人程度参加して開きました。店主の岩澤さんのアドバイスをいただきながら、補助金の使い道などについて協議したり、出展の可否やその内容等の相談をしたりしました。
- ・ 10/27 のコープみらいフェスタでは、8 つの中高生・大学生の団体が出展しました。
- ・ 11/17 の川越次世代 SDGs 展は、川越駅西口の U PLACE の 1 階を借り切って行いました。「古着のリメイクワークショップ」「企業の SDGs の取り組み紹介クイズ大会」「県内特産品の展示販売」の 3 団体が出展しました。そのうち「古着のリメイクワークショップ」は、筑波大学附属坂戸高校 2 年生 3 名と、芝浦工業大学生 2 年生 2 名とのコラボ企画です。筑波大学附属坂戸高校生は巾着（きんちゃく）やティッシュケースのリメイクワークショップを行い、芝浦工大生が完成した作品を写真撮影して即座にアプリに登録してスクリーンに表示するという役割分担で行いました。



3. 活動の成果

「古着のリメイクワークショップ」では、子どもたちに楽しみながら、ものづくりをする場を提供することができ、また、廃棄されてしまう布類の有効利用が可能なことを伝えることができました。「企業の SDGs の取り組み紹介クイズ大会」に参加した子どもたちは楽しみながら SDGs や企業について学んでいました。「県内特産品の展示販売」を通じて、ときがわ町の特産品について埼玉県民にアピールすることができました。

4. 今後に残された課題

中高生主体での活動であり学業の合間に行うことから、メンバーが揃わなかったり、準備が遅れてしまいがちになったりしてしまいました。また、来場者が必ずしも想定した層でない団体もあったことから、ターゲット層に対してどう PR するかが課題と思います。